

吾妻地域審議会

提 言 書

平成28年3月29日

吾妻地域審議会

はじめに

昨年１０月１１日をもって１０年の節目を迎えた雲仙市において、雲仙市総合計画に掲げる市の将来像「豊かな大地・輝く海と、ふれあう人々で築く、たくましい郷土」の実現に向け、市民が主役・市民総参加による、市の総力を結集したまちづくりを進められてこられたことに対し、心から敬意を表します。

さて、吾妻地域審議会は、合併から平成２６年３月に至るまでの８年間に渡り、合併後も地域住民の声を新市の施策に反映させるため、市長の諮問に対し答申するとともに、吾妻地域が抱えている課題について、具体性・効率性のある解決策を提言してまいりました。

この度、私たち１５名は、平成２６年８月に市長から委嘱を受け、第５期地域審議会の委員として活動を始めて以来、市制施行１０周年という節目を迎えた雲仙市のこれまでを振り返る総括的な視点に立ち、合併時に策定された「新市建設計画」を踏えて策定された「雲仙市総合計画」の執行状況に関する事項に係る市長からの諮問に対し、審議を行なうとともに、地域振興に関して、本地域のこれからの歩みを地域住民の目線から展望し、現状と課題を踏まえた解決策について、「町下埋立地を拠点とした、人が集う、吾妻町づくり」と「快適で魅力的な住環境の整備」をテーマとした提言書を取りまとめました。

委員一同、「住みたい・住みやすい」まちづくりの実現を切に願っており、その思いを吾妻地域審議会の提言書として提言いたします。

平成２８年３月２９日

雲仙市長 金 澤 秀 三 郎 様

吾妻地域審議会

会長 木下 直人

目次

提言 1 : 「町下埋立地を拠点とした、人々が集う、吾妻づくりについて」・・・P 1

提言 2 : 「快適で魅力的な住環境の整備について」・・・P 3

第5期吾妻地域審議会

提言1「町下埋立地を拠点とした、人々が集う、吾妻町づくりについて」

1. 現状と課題

町下埋立地は、平成20年6月に埋立免許の申請を受け、諫早湾干拓堤防道路の本市側に隣接する町下地区の公有水面の埋立地整備が行われ、現在、完成間近となっております。

過疎や少子高齢化が進み、地域コミュニティの衰退が危惧される本地域において、埋立地の早急な完成及び、土地の利活用を進めることで、人々が集い、賑わいが創出され、地域の活性化につながるが見込まれており、市民の期待も大変大きくなっています。

しかし、埋立免許の申請当時の利用計画は、農産物の直売所、多目的施設、芝生広場等の整備が主目的となっておりますが、現在の状況に適合していないことから、地元の意向を踏まえた利用計画を策定することが必要です。

2. 特に、

- ・福岡、佐賀からの玄関口となっている諫早湾干拓堤防道路は、1日に3600台から4600台程度の車が利用しており、また、高規格道路の整備が計画されているなど、道路網の整備により、さらなる交流人口の拡大が期待されますが、滞在できるスポットが少なく、吾妻町が「通りすがりのまち」化してしまうおそれがあります。
- ・町下埋立地を活用して、吾妻町を目的地として、人々が集う施設・スポットの整備が求められます。
- ・町下埋立地の整備については、埋立地が「着地型観光の拠点」、「地域振興の拠点」、「災害対応の拠点」といった活用が図られるよう整備する必要があります。

3. 具体的には、

- ・史跡など観光資源を活用した学習型観光や本地域で盛んな農業を活用したグリーンツーリズムなど、特色ある観光PRを実施し、集客する必要があります。
- ・諫早湾干拓道路や高規格道路等インフラ網の充実による交通の利便性を活かし、吾妻町の様々な特産品を販売する直売所の整備が必要です。
- ・特産品の直売所の整備にあたっては、誰でも出品が可能となるよう配慮し、小規模農家の自立を促し、営農活動を行う事ができる施設として整備することが必要です。
- ・埋立地内に、芝生広場等を整備するだけでなく、隣接する干陸地の整備を一体的に進め、遊歩道など、多くの世代の住民が集う憩いの空間づくりが求められます。

第 5 期吾妻地域審議会

- ・町下埋立地整備については、諫早湾干拓道路や、高規格道路等インフラ網の整備による交流人口の増加に対応できるよう早急な整備が必要です。
- ・ドクターヘリの発着できる場所が現在吾妻町内になく、緊急時の医療体制に不安があるため、町下埋立地にドクターヘリの発着所を整備する必要があります。
- ・国道 2 5 1 号線からの新しい進入路を整備することにより利便性の向上及び緊急時における救急車両とドクターヘリとの連携の円滑化を図る必要があります。
- ・有事の際のボランティア集合場所、物資の集積地といった機能の整備が求められます。
- ・町下埋立地の利活用計画の策定にあたっては、計画を住民の意見を十分反映したものにするため、市民懇話会やワークショップ等意見を聴取する場所が必要です。
- ・諫早湾干拓道路と高規格道路の接続を検討する必要があります。

第5期吾妻地域審議会

提言2「快適で魅力的な住環境の整備について」

1. 現状と課題

吾妻町の人口は、合併前の平成17年時の国勢調査では7,330人でしたが、若者の都市部への流出や基幹産業である第1次産業規模の縮小により人口の減少が続き、5年後の平成22年国勢調査では、初めて7,000人を切り、平成27年国勢調査（速報値）では6,476人となっております。今後このままのペースで人口減少が進行すると5年後の平成32年には6,200人を下回ると推計されております。

しかし、諫早湾干拓地堤防道路や平成30年に新しく開通が計画されている高規格道路の整備や、交通インフラ網の充実により、人々の生活圏の拡大が予想されております。

その一方で、愛野町では、宅地の不足が懸念されており、愛野町の住宅需要を、吾妻町へ波及させることができるよう、移住者にとって魅力的なまちづくりが求められます

2. 特に、

- ・道路交通網の充実による生活圏の拡大を好機と捉え、本地域への定住促進策に取り組む必要があります。
- ・吾妻町内に多数存在する空き家や空き店舗を有効活用することにより、若者や子育て世代の定住促進を図り、過疎の進行を抑制するとともに、生活環境の維持や地域の活性化に努める必要があります。
- ・人口の減少に伴い地域コミュニティの衰退が懸念され、地域の絆が希薄になることが懸念されます。
- ・高齢化が著しい本地域にとって子育て環境を整備することが急務となっており、若者世帯・子育て世帯を本地域に移住、定住させることが課題となっております。

3. 具体的には、

[移住・定住促進対策について]

- ・農業が盛んな本地域には、作業スペースを兼ねた広い土地を持つ空き家も多く、こうした空き家の掘り起こしを行い、子育て世帯に的を絞って周知するなど、利用希望者と住環境のマッチングが求められます。
- ・空き家の利活用の促進には、風呂、トイレ、キッチンなど水周りの設備が綺麗な状態で整っていることが大きな条件であると考えられるため、空き家所有者及び、利用希望者にとって支援の幅が大きい改修費補助制度の創設が必要です。
- ・移住促進については、現在の移住相談窓口の存在は一般に理解されておらず、移住相談窓口をより明確に周知し、相談しやすい体制の構築に加え、移住者の理想とする移住計画を詳細に把握し、相談から移住後のフォローまで移住希望者に寄り添う取組みの実施が求め

第5期吾妻地域審議会

られます。

[地域コミュニティの活性化について]

- ・現在吾妻町独自で行われるイベントが少なく、地域の住民同士の交流の場が少ないため、地域の核となる人材の育成に注力するとともに、活発な地域活動を実践するための支援が求められます。

[子育て環境の充実について]

- ・遠距離通学生への補助金が必要です。
- ・子どもが多いほど手厚い支援となるような多子世帯への補助金が必要です。
- ・小児科、産婦人科が不足する現状は、子育て世代にとって定住への大きな懸念材料となります。小児科、産婦人科の開業に対し、支援の実施が求められます。
- ・核家族、単身者向けの地域活性化住宅の整備が必要です。